

パーシャル・トランスレーション考察

—「使える英語」を目指した intake 活動の重要性—

神谷 正之

はじめに

本校は、神奈川県ほぼ中央にある伊勢原市の真中に位置する創立80周年を迎えた伝統校である。霊峰大山を背に歴史的文化的環境に恵まれ、平成20年度文科省より、我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業の委嘱を受けた。MARCHレベルの大学に進学する者もいる中堅校として、地域の信頼を得ている。1, 2年生の英語は週5時間で、2クラスを3分割して少人数授業を実施し一部は習熟度別クラス編成を実施している。

外国語教育の成否

大学の教科教育法の授業で、大友賢二先生は外国語教育の成否を決定する要因として、認知記号学習理論の論者であるJohn B. Carrollの5つの定義を教授された。それは、

- ① 学習者の適性
- ② 学習すべき事柄の理解能力(知能)
- ③ 学習者の動機付け
- ④ 学習の機会
- ⑤ 指導の質 quality of instruction

である。このうち、教師に関わるものは④と⑤である。また、教授法の問題を含むものは⑤だけである。言語学や言語理論に外国語教育の成否との関係が生まれてくるのはほんのわずかに過ぎない。学習者の適性や能力そして学びたいという動機がなければ、英語は身につかない。

かつて、文法訳読教授法(Grammar-Translation Method)が全盛を極めたのは、英文を訳す作業を通じて知的財産を得ることが主眼であったからだ。教師は、教壇に立つなり「何ページ何行目から、何ページ何行目まで、〇〇君、訳したまえ。」と指示し、他の生徒はじっと聞くだけであったという。一人の生徒の発話以外に何の音声も流れない静謐な授業である。言語活動の中心は和訳であり、その和

訳成立の根拠となる文法教授のみである。英語が話せる日本人を作るために小学校での外国語学習を導入するとき、この教授法が使われることはないだろう。学習者の適性や能力そして動機付けが外国語教育の成否の多くを占めるときに、授業で一人だけが発話する授業は生徒のモチベーションを落としかねないからである。高校段階では生徒が訳読ばかりに時間を割かれることなく、さまざまな言語材料に対してReading, Writing, Listening, Speakingの4技能を磨いていく授業が望ましい。John B. CarrollはDirect MethodやOral MethodのようなAudio-Lingual Habit Formation Theory(口頭練習による習慣形成理論)とNoam Chomskyを中心としたCognitive Code-Learning Theory(認知学習理論)とを融合させたCognitive Habit-Formation Theoryを推奨した。和訳先渡し授業は、その考えを具体化したものの一つと考えてもいい。

和訳先渡し授業

和訳先渡し授業のメリットは次の2点にある。

- ① 生徒の活動は英語そのものを読むという作業が中心になる。
- ② 読解への負荷が減り、それによって生み出される余力を英語を使う他の活動に振り向けられる。新出単語(句)、構文、文法を教えながら英文を和訳していく文法訳読方式の授業では一回きりの訳読作業が終わればそれで授業が完結する。日本語は獲得できても、英語をintake(取り入れる)することは少ない。Thank you, Good morning, My name is Kenjiなどのフレーズはだれでも口をついて出てくるが、もっと多くの日常的な表現が出てこないのはintakeが少ないからだ。和訳先渡し授業はintakeの時間を増やし、英語(運用)力を高めるのが主眼である。音読はテープ(CD)―教師によるモデルリーディング―生徒のコーラス(インディビ

デュアル)リーディングをパラグラフ単位で行うのが一般的だが、和訳先渡し授業ではペアワークやグループ活動の中で単語(句)の発音練習、意味確認、音読とその相互評価など、さまざまな活動ができる。紙面が限られているので、その他の活動は省略するが、1レッスンが通常4時間の授業であれば1時間分を intake に充てることができるという報告もある。ある SELHi 指定校で実施された授業評価では和訳先渡しについて9割が「役に立っている」と回答し、授業の評価を語彙、文法、長文、リスニング、ライティングと広い分野で感じているという。intake の作業が、言語活動全般に効果を上げているといえる。

和訳先渡し授業の陥穽

先の SELHi の生徒の授業評価のなかには、授業のペースが速い、教材内容が難しい／面白くないという声もあった。また、英文の構造や文法に不満を感じる生徒も多く、そのため教師が文の構造を解説するハンドアウトを作って授業中にその解説に時間を割くこともあると言う。訳読作業を省略し、教科書の言語材料を有効に intake するために多くの単語や構文のハンドアウトを作るのは時間と労力を必要とする。鳥飼玖美子氏は、『英語教育』(2009年9月号)の中で、「私が『文法』と言う際に考えているのは、音韻や語彙、構文などを包括した言語体系としての『文法能力』であり、(略)結束性と一貫性を有したセンテンスを組み立てて書いたり話したりすることのできるディスコース能力のことである」と語る。和訳や文法に終始する授業ではなくとも、ひとつの文がどのような語やフレーズや構造をもって文法的にまとめられているかを教えていくかは、ディスコース能力を正確に養うために必要なことである。

BIG DIPPER English Course I について

TEACHER'S MANUAL の冒頭に基本方針が書かれている。「確実に本文を『読むこと』から『聞くこと』『話すこと』『書くこと』へと有機的に結びつく構成」(p.3)とし、そのための有効な指導法としてフレーズリーディングの指導を挙げ、直読直解の定着から「英語を使える」ことを目指すとしている。intake はとりもなおさず、「英語を使える」ための

活動である。和訳先渡し授業が intake には最適な方法と考えられるが、一方 SELHi の高校でも一部訳読方式への回帰がある。本校のような中堅校ではもっと顕著となる。

以下は CD-ROM に収められている教科書 p.18 Lesson 2 part 2 のフレーズリーディング用本文の一部である。

Lesson 2 Fast Food

Part 1

① Look at this picture. // What do you see? // They are fast-food
この絵を見てください // 何が見えますか // これらはファーストフードの

stands / in the Edo period. // People first sold sushi and tempura / at
屋台です / 江戸時代の // すしや天ぷらは最初売られていました / 江戸の屋台で //

food stands in Edo. // At that time, / they did not use raw fish for
その当時は / にぎりずし用に生の魚を使いません

nigirizushi. // They soaked fish in vinegar / or cooked it. // Tempura in
でした // 人々は魚を酢に漬けるか / あるいは火を通しました // そのころ

those days was also different / from tempura today. // People ate it /
の天ぷらも違っていました / 今日の天ぷらとは // 人々は天ぷらを食べていまし

from a large plate with a skewer. //
た / 串を使って大きな皿から //

フレーズごとに、英語の語順のまま意味をとった日本語が書いてある。フレーズをチャンクする指導はとて大切で丁寧に繰り返して行う必要がある。それを適宜解説するのだが、その際に私は生徒に次のハンドアウトを渡している。

Lesson 2 Fast Food sub note Part 1

fast-food period soak vinegar plate skewer

① Look at this picture. // What do you see? // They are fast-food stands

この絵を見てください // 何が見えますか // これらはファーストフードの()です

/ in the Edo period. // People first sold sushi and tempura / at food stands in Edo.

/ 江戸()の // すしや天ぷらは最初 _____ / 江戸の屋台で //

// At that time, / they did not use raw fish for nigirizushi. // They soaked fish in

()は / にぎりずし用に()を使いませんでした // 人々は魚

vinegar or cooked it. // Tempura in those days was also different /

_____ / あるいは火を通しました // ()の天ぷらも _____ /

from tempura today. // People ate it / from a large plate with a skewer. //

今日の天ぷらとは // 人々は天ぷらを食べていました / 串を _____ 大きな()から //

TEACHER'S MANUAL にも、大阪府立吹田東高等学校の今村一博教諭の授業展開例が載っていて、その中に「虫食い(空所補充)プリント」を使った指

導例がある。そのポイントは、「覚えさせたい単語、熟語、表現、また前置詞、接続詞、文法事項、構文などを虫食いにする」(p.10)というものである。詳細は不明でも、指導の主旨は自分が作ったハンドアウトと同じであろうと推測する。私は生徒にその場でフレーズごとのパーシャル(部分的)な和訳をさせている。和訳先渡し授業のメリットは先に述べたとおりである。その場合英文と日本語との対比は各自の学習に委ねられているわけであるが、本校のような学校では自分の意味確認を不安に思う生徒も多いことだろう。すべてのフレーズに空所を設けているわけではなく、一部はそのまま日本語を載せている。空所の表記は()には語句を、下線を施した部分には、動詞を中心とした述部、一定の文法項目を有するフレーズや節を記入するように分けている。この空所の穴埋めには、かつてよく使われたフラッシュカードと重なる部分があるように思われる。

フラッシュカード

平成23年度より小学校では外国語活動が導入される。小学校学習指導要領解説外国語活動編にある、「3 指導計画の作成と内容の取り扱い」のなかに「(4)指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること」及び「(6)音声を取り扱う場合には、CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること」という一文がある。小学校での外国語学習での目標は「(略)外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」としている。こうした目標に対して有効な言語活動として、フラッシュカードを用いた授業がある。平成23年度からの新学習指導要領実施を前に多くの教材会社がいちいちカードを用意している。既にフラッシュカードは、「遊びながら学べる」幼児教材として定評があり、英語だけに限らず物の名前を覚えるものから、国語、理科、社会、算数の基本学習をサポートするものまで幅広い。鮮やかな色を用いて視覚的に訴え、同時に聴覚で物の名称を確認していくものである。英語においては、画用紙の半分に英単語が書かれ、その下にその日本語が書いてあるものが昔からある。上半分を見せ、生徒に考える時間を与え、

そして残りの半分を見せて確認させる。この提示する時間を速めたり、遅らせたりするその運用方法で違う効果を得られるとされる。この教授補助用具は、かつては初めて英語を学習する中学生に対して教室で頻繁に使われ、有効であるとされた。しかし、今日ではある調査によると、英語の授業で「前はよく使われたのに、最近では使われない教具」として、フラッシュカードも挙げられている。かつてほど、授業中には見かけることのない教具なのである。

和訳先渡し授業が取りこぼしていったものとして、言葉を獲得する時の鮮烈な驚きがある。全てがあらかじめ提示されていたのでは言葉を見つめる喜びはない。空所に、自分の手で書き込むことで、英語表現の対訳を完成させる。そこには、カードの上下に英語と日本語が記されたフラッシュカードの効果と同じものがあると思われる。

空所補充の学習心理学的考察

パプロフは自分の犬に餌を与える前に音を鳴らした実験で「条件反射」を定義した。これは「古典的条件付け」ともよばれ、ひとつの刺激(学習)の後に得られる受動的な反応だ。これは動物による実験であったが、試行錯誤の末に「自発的行動」が変わり何かを獲得することを発見したのがEdward L. Thorndikeである。学習成立のひとつの理論としての連合説は「学習は自らの自発的行動による試行錯誤の過程である」とする。人が何かの経験を通じて行動の変化が生じたことを「学習」とすれば、空所に語句や文が正しく入るのも学習ということになる。さらに、連合説は「行動の結果に対して正の報酬(満足)が得られるとき、その行動は「強化」され、同一状況下で繰り返し発生するとしている。

教師や他の生徒からの刺激を受けて、虫食いの穴埋めを完成させることには、連合主義から発展した行動主義心理学のプログラム学習のような、学習に対する計画的・効率的な意図はない。しかし、プログラム学習の原理である、①即時確認の原理や、②積極的反応の原理はこの穴埋め作業にも当てはまる。つまり、学習者が空所補充に適切な反応をしたときは、直ちに強化刺激が与えられ①、受動的ではない、学習者の積極的・自発的反応を促す②からである。

機械的な指名で生徒に穴埋め作業をさせていくことを繰り返すうちに、生徒は次第に自発的にその作

業に取り組むようになる。強化されたことが積極的
反応を促したことになる。こうして p.9 のハンドア
ウトは予習プリントの役割も果たしていく。

原理とパラメーター

フレーズごとの日本語訳は読解作業であって、翻
訳ではないと TEACHER'S MANUAL にもある
(p.10)。フレーズの意味が完成したとしても、生徒
は英語と日本語の構造の違いに対処しなくてはなら
ない。Chomsky が提唱した普遍文法による「原理
とパラメーター」の理論によれば、S や V や O は
全ての言語にあるが、その位置は言語ごとに異なる。
また、先頭パラメーターの理論では、句の本質的な
部分はその先端であるとしている。例えば、英語の
"picture of Alice", "on my blue guitar", "ride
a bicycle" では、それぞれ先頭にある picture,
on, ride が主要語であるが、一方その意味に対応
する日本語の「絵」、「で」、「乗る」は後方に位置す
る。英語は主要語前置であり、日本語は主要語後置
である。こうしたパラメーターの違いが語学学習を
難しくしているとされる。「絵」や「乗る」はわか
りやすいが、前置詞句を作る on を「で」と訳すこ
とがすぐにできる生徒は少ない。intake を増やす
ことはこのような読解作業にも有効である。読解か
ら翻訳への過程は、言語学の極めて本質的な課題を
提示している。私は翻訳(和訳)作業を授業中には
行っていない。生徒が各自行ったものをノート提出
のときに点検している。他の言語活動の時間を増
やすことが大切だと考えているからだ。フレーズ
ごとの読解が終わった後は、教科書にある Read It
Through で内容把握を行い、時には TEACHER'S
MANUAL にある Additional Questions を用いて
listening の機会を増やすことも行っている。「教科
書を教える」のではなく「教科書で教える」とかつ
て言われたものだが、教科書に十分なワークがあれば、
ことさら独自のハンドアウトを作る必要もない
と思う。ただ、単語のドリルワークと英作文のハン
ドアウトは渡している。

まとめ

和訳先渡し授業を中心とした、「使える英語」を
目指した「英語取り込み授業」を支えるものは、費
やす時間数の差こそあれ認知主義理論(Cognitive

Code-Learning Theory) に基づいたものになる
はずだ。しかし、習慣形成理論に基づいた音声面
の強化が intake 作業の最初に来ることもまちが
いがない。4 技能を高めるために listening し、発
話(speaking)し、単語のドリルワーク(writing)を行
う。そして reading は英語と日本語の構造の違い
をフレーズの空所補充を通じて行う。それは一つ
の発見作業でもある。空所に何を入れるかは、前後
の語句の確認から始まらなくてはならない。日本
語が示してあっても、それはどの英語に対応したも
のかを知らなければならず、極めて cognitive な作
業である。プログラム学習における即時確認の原理
は、授業の場で行うほうが、和訳を自分一人で確
かめるより効果的だと思われる。それは学習者の能力
の違いとは無縁であろう。BIG DIPPER English
Course I は SELHI で採択されることは少ないか
もしれない。しかし、「使える英語」を目指すとき
に全く遜色のない教科書である。難しい語彙や文
法、複雑な構文の多い英文は intake には不向きな
ところもあるし、平易で基礎的な英語を取り込む
ところから始めるのが肝要だからだ。今年、BIG
DIPPER English Course II で教えることを楽し
みにしている。

参考文献

- 市川三喜編『英語教授法辞典』(1976)開拓社
加賀野井秀一『20 世紀言語学入門』(1995)講談社
ジョン・C・マーハ『チョムスキー入門』(2004)
明石書店
永野重史『教育心理学』(1998)放送大学教育振興
会
岩田純一・梅本堯夫『教育心理学を学ぶ人のために』
(1995)世界思想社
鳥飼玖美子『英語教育』(2009 年 9 月号)「特集 小
学校の外国語活動 Q&A」大修館書店
『STEP 英語情報』「特集 進化する和訳先渡し授
業」(2004.9.10 号)財団法人日本英語検定協会
大友賢二「英語の測定と評価」(1972)ELEC

(神奈川県立伊勢原高等学校総括教諭)